

# 千刈狸の呟き

## 「馬の耳に」

地方の病院から医師がどんどん減り、患者も減少し赤字経営よりは一旦閉鎖した方が市の予算が助かるというので閉鎖した病院があちこちにある。何故こんな現象が起ったのか。これは数年前から始まった教授公募とそれに追討ちをかける様に研修医が自分で病院を選べる様になり医師が偏在しまった結果である事は論を俟たない。大都会に医師が余っているかと言えばそうでもない。研修医は行きたい所に行くのである。成長期の子供が好きなのだけ食べて大きくなるのと同じにそういう医者の子はボランティア精神に溢れてはいない。何時迄経ってもリスクの高い所には集まりはしない。特に救急を要する所には絶対と断言している程希望しない。救急病院のあの忙しさ。小生も若い頃バイトで経験があるが予算の関係で夜間一人しか医師が居ない救急病院で一番命が危ういのは医師の方である。今や国家危急存亡の時であると云っても過言ではあるまい。昭和18年秋、大東亜戦争もそろそろ敗色が見えかしてくれている時、学徒動員令が下り20才以上の文科系学生は赤紙一枚で陸軍二等兵になるか海軍に志願して最下級将校になり特攻隊配属になるかの選択を迫られていた頃を知っている人間もすくなくなり、たまに何かを話しても後期高齢者という括りでボケ話の様に流されてしまう。その時代を生きて来た我々にとっては何を今更の感がある。歴史を学べ。形は

違っても、50年も前から医師不足は叫ばれていた。違ふとすれば意識の問題であろう。官僚、医師、患者、国民総てのものの感じ方、捕え方に云える。先日、アメリカに黒人の大統領が誕生した。世界はチェンジ、チェンジを求めている。毎年2500億円づつ予算を削る事を生き甲斐としている厚労省の政策から脱却する行動をとらなければならない。彼等は責任もとらなければ現場にも居ないのだから。現状打開策は先ず強い医師会を作る事。力がなければ良き事も実践出来ない。中央だけに任せず、強いリーダーシップを持った地方からの声を出して行く事が必要なのではないだろうか。先日のニュースでソマリア沖で海賊が急増しているとの事。あきれた話であるが、テロは陸にも海にもある。海賊は古くバイキングの頃からあった。日本にも何とか水軍というものがあつた。生きるとはよくも悪くもハングリー精神を持つ事だ。「生命」というものを業にしている我々にもっと逞しさを求めたい。開業医になって40有余年、聴診器1本で患者を診て来た先輩達に命を救う事のパイオニア精神を学んだ。秋田は学力、体力共に全国のトップクラスにある。暗い話題から脱却し「秋田は医療も充実しているそうだ」と中央に発信してみたい。夢を形にしてみよう。

これが最期の呟きだ。

(緑の狸)